州南有二莫高窟一、去レ州二十五里、中過二石磧一帶二山坡一、至レ彼斗二下谷中一、其東卽三危山、西卽鳴砂山、中有二自レ南流水一、名二之宕泉一、古寺僧舍絶多、亦有二洪鍾一、其谷南北兩頭、有二天王堂及神祠一、壁畫二吐蕃贊普部從一、其山西壁南北二里、並是鐫二鑿高大沙窟一、塑二畫佛像一、每窟動計二費耗百萬一、前設二樓閣數層一、有二大像堂殿一、其像長一百六十尺、其小龕無數、悉有二虛檻一通、連二巡禮遊覽一之景

地勢を始め、鐫鑿された沙窟、窟前に設けた堂塔の有様など、ほゞ現在見る所を寫し得たものである。古寺僧舍甚だ多しとあるのは、沙窟の麓を流るゝ川卽ち宕泉に沿ふた平地に存したものに相違なく、例のこゝの書窟から出た書物の印記に屢々見ゐる三界寺といふ寺の如きも、此の中の一つであつたものと思はれる。今上・中・下寺と呼ぶ寺もやはりこゝに位置して居り甘肅通志や敦煌縣志に見ゐる雷音寺の位置もこゝに當る。長さ一百六十尺といふ大像は、思ふにスタイン氏が九十フィートに達する大佛像として、特に記して居るものに (Serindia p. 796) 相當するのではあるまいか。虛檻といふのは思ふに窟龕の前に支へ無しに突き出したバルコンの如きものを指したのに外ならぬであらう。ジャイルス氏はペリオ氏の考に從つて、二度目の翻譯に於て之を廊 (Galleries) と譯して居る。

唐代以後も無論また佛洞は增築せられ、從つて塑像繪畫を始め、すべての裝飾藝術は、單に舊代のものを補修した以外に、五代宋元といふやうに種々の時代のものを認める事が出來る。美術にはそれぞれ各時代の特徴があつて、大體それによつて製作の時を鑑別し得られるとはいふものゝ、それは必ずしも絶對的に確實な尺度とするには足りないと思ふ。何となればかゝる種類の美術に於ては、往々其の當時の流風に據らないで、特に古代の形式を襲